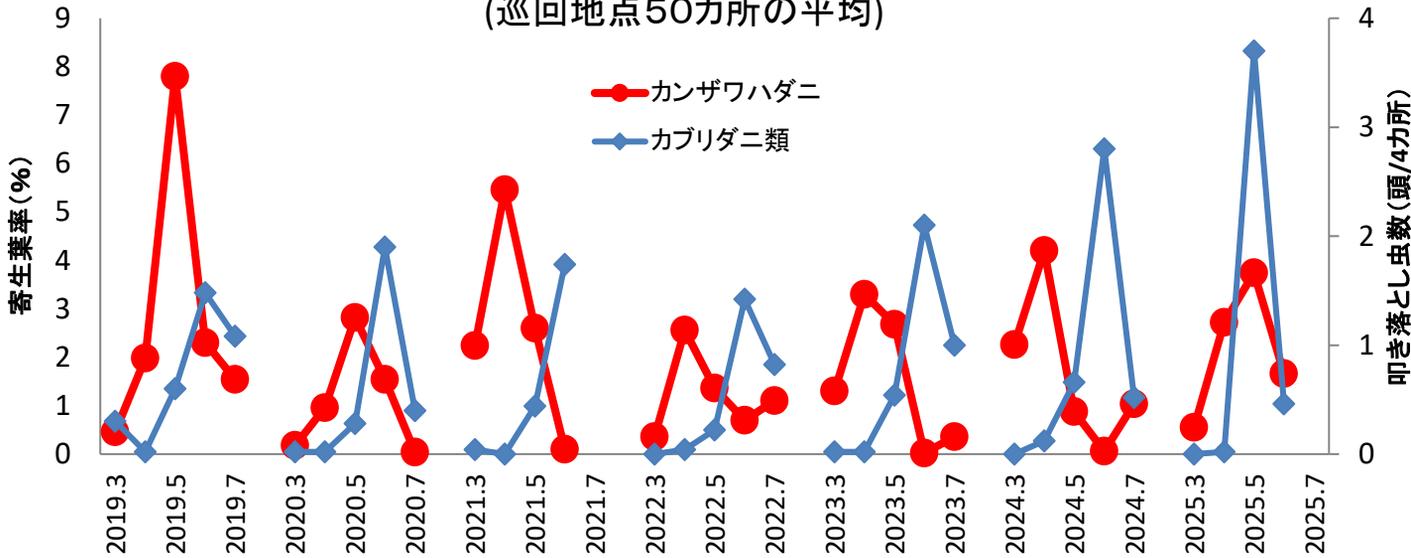
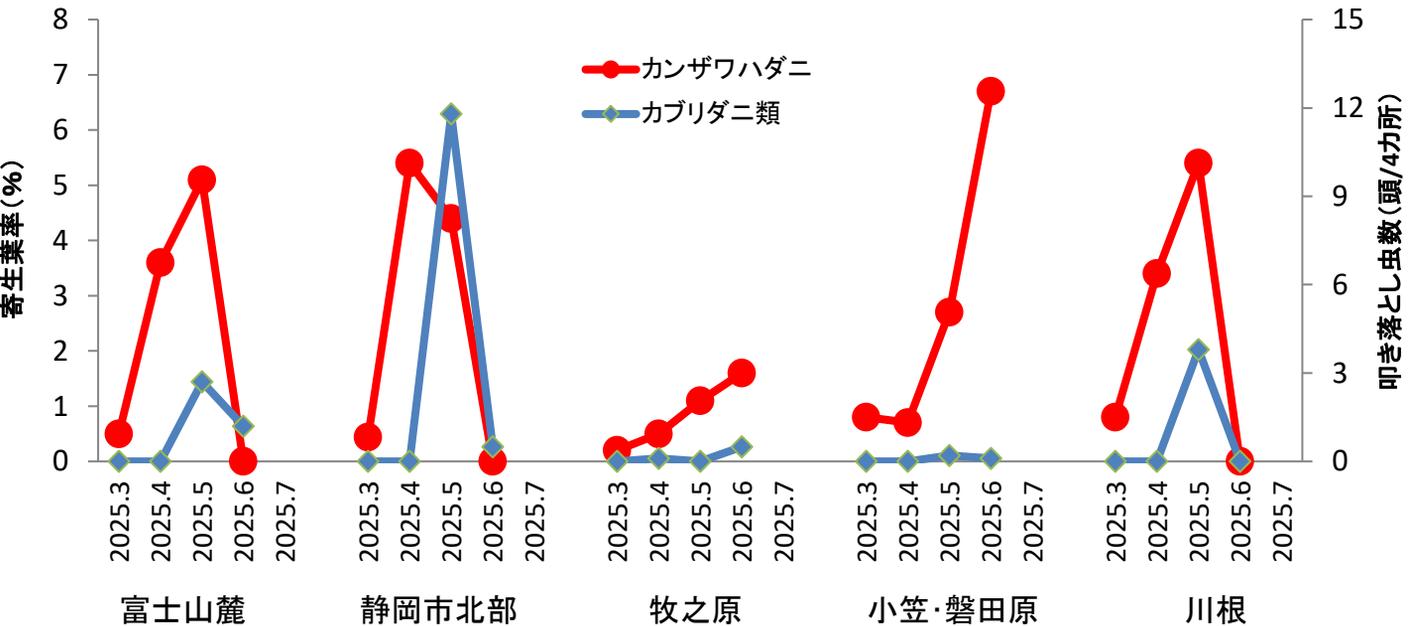


# カンザワハダニと天敵カブリダニ

## カンザワハダニとカブリダニの年次別発生推移 (巡回地点50カ所の平均)



## 2025年の地区別発生推移(各地区10カ所の平均)



本年(2025年)6月におけるカンザワハダニの発生は、平均寄生葉率1.7%(平年1.0%)と、平年よりもやや多かった。天敵のカブリダニ類の平均叩き落とし虫数は0.5頭/4か所(平年2.2頭/4が所)と、平年より少なかった。

地域別では、富士山麓、静岡市北部、及び川根地域では、カンザワハダニの発生が減少したものの、牧之原及び小笠・磐田原地域は発生が増加した。梅雨時期は茶園が湿潤となり、カブリダニ類(天敵)の活動が活性化するため特に防除の必要はないが、新葉に被害が発生している茶園では注意が必要である。

## 〈参考〉 チャを加害するカンザワハダニ

カンザワハダニは、多くの植物に寄生し葉を吸汁加害します。吸汁された葉は黄化、褐変し、奇形となったり落葉する場合があります。

冬季に茶園では低温と短日により雌成虫は朱色の体色となり、休眠状態となって越冬する個体が多いです。

休眠個体は薬剤感受性が低いため、茶園の春先の防除は休眠が明けて産卵を開始してからとなります。



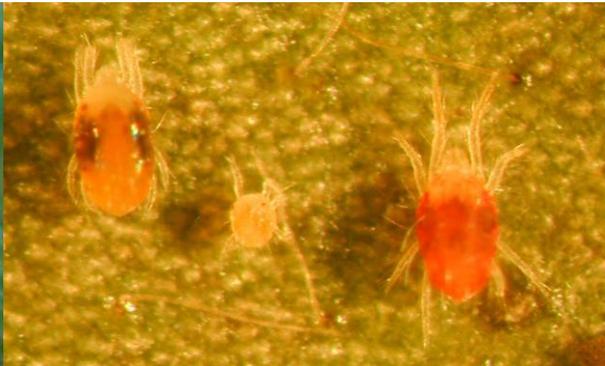
活動中の雌成虫(左)と休眠中の雌成虫(右)



越冬中の休眠雌(鮮やかな朱色となる)



葉裏に産み付けられた卵と第1若虫



第2若虫(左・右)と幼虫(中)  
幼虫の足は6本、若虫以降は8本。



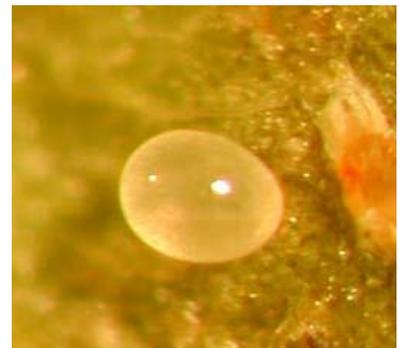
雌成虫



雄成虫



カンザワハダニを捕食中の  
天敵ケナガカブリダニ



天敵ケナガカブリダニ  
の卵(卵形をしている)